

2016.01.29

創立35年を迎える博報堂生活総合研究所、
生活者発想で未来を誘発するシンクタンクへモデルチェンジ

第一弾の発表会『みらい博』を開催

「生活空間」と「人間関係」の変化に着目した
2025年の「街の未来シナリオ」を発表

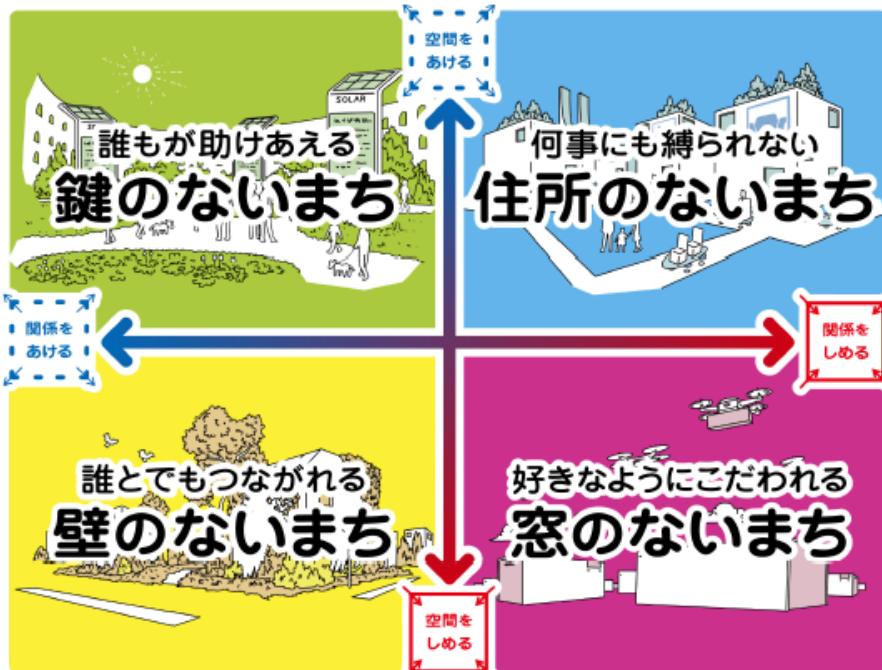
博報堂生活総合研究所は、1月27日と28日に研究発表会『みらい博 あしたのまちの100の風景』を開催いたしました。

2020年以降の日本は、いよいよ本格化する超高齢化と人口減少に直面します。この未曾有の変化を前に、いまや「未来予測」は注目度の高いビジネスイシューになりつつあります。

博報堂生活総合研究所は、1981年の設立以来、「生活する主体」である人間の意識と行動を調査研究、発表してきました。今年、創立35年を迎えるにあたって、「ひらけ、みらい。」を新スローガンに掲げ、生活者発想で未来を誘発するシンクタンクへと大きくモデルチェンジします。

毎年、年初に行ってきた研究発表会も、本年度から『みらい博』と銘打ち、少し先の日本の未来像を様々な角度から描き出す「未来のくらし」の博覧会へと刷新。第一弾の発表会では、生活者の暮らしの舞台である「街」をテーマに、10年後の2025年を見据え、希望とチャンスに満ちた【街の未来の4つのシナリオ】を提示しました。本発表会には、企業のマーケティング担当者や経営層、マスコミ各社など、700名を超える方々にご来場いただきました。

生活総研が提示する【街の未来の4つのシナリオ】



参考：『みらい博 あしたのまちの100の風景』発表概要

街の未来が変わる背景

■生活を支えてきた基盤が崩壊し、日常生活難民が街にあふれだす

2025年、日本は本格的な「超高齢化社会」を迎えます。例えば、1人の高齢者(65歳以上の方。以下同様)を支える現役世代は、1975年は7.7人でしたが、2025年には1.8人へと減少(※1)。さらに、健康寿命(男性71歳、女性74歳)を超える75歳以上が高齢者の6割を占めると想定されています(※2)。また、高齢者のなかでは単独世帯が増加(※3)。いざという時に頼れる人がいない人や、日々の買い物にすら苦労する「買い物難民」が深刻な問題になると考えられます。さらに、雇用者の約半数が非正規雇用になると予想されるなど(※4)、労働環境の不安定化も進みます。

(※1)(※2)総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(※3)国土交通省国土計画局「国土の長期展望 中間とりまとめ」

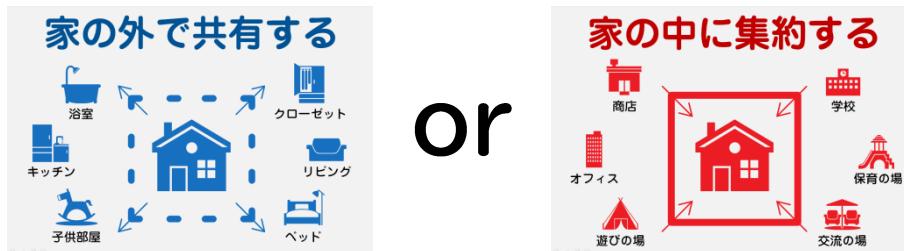
(※4)労働政策研究・研修機構「雇用ポートフォリオの動向と非正規雇用化に関する暫定レポート」

■この危機を乗り切ろうと、生活者が生き方・暮らし方を変えはじめる

こうした危機を生活者はどのように乗り切るのか…。それを探るため、博報堂生活総合研究所では様々な調査研究を行いました。その結果、街の「生活空間」と「人間関係」に関して、以下のような生き方の選択肢が生まれると予想しました。

「生活空間」

- “家の外で共有する”** 家に集積していた機能を手放し、街全体で共有・利用する暮らし。
すべての物事を自分や家族だけで抱える無駄を減らそうとする生き方です。
- “家の中に集約する”** 街に分散していた機能を家に集め、家のなかで生活を完結させる暮らし。
移動の時間や労力を減らそうとする生き方です。



Or

「人間関係」

- “他の人と助けあう”** 互助のしやすい場や仕組みを活用し、寂しさや不安を解消する暮らし。
人との助け合いを増やそうとする生き方です。
- “自分で何とかする”** テクノロジーや外部サービスを活用し、他人に気兼ねなく自立する暮らし。
自分でできることを増やそうとする生き方です。



Or

■「生活空間」「人間関係」の変化から、4つの街の未来が生まれる

2025年、「生活空間」と「人間関係」それぞれで生まれる上記の選択肢を「あけるか？しめるか？」で分かれる2本の軸であると捉え、2つをかけあわせることで【街の未来の4つのシナリオ】を発想しました。



■街の未来の4つのシナリオ

「生活空間」「人間関係」の変化から生まれる【街の未来の4つのシナリオ】は、下記の通りです。

誰もが助けあえる 鍵のないまち

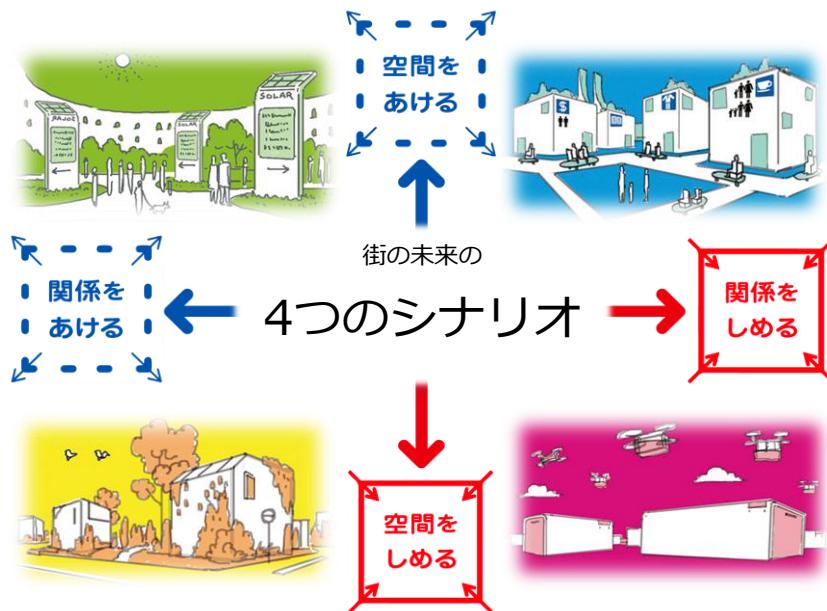
お風呂やキッチンなど家にあった機能は家の外で共有
人びとは「助け合い」を通じてつながる

このまちでは、あらゆる場所は誰もが気軽に行き来しやすい公共空間となっています。そのため、このまちから鍵はなくなりました。家事や育児、介護なども住民みんなで協力しあえるようになっています。実利をベースとした助けあいから生まれる絆がこのまちで暮らす人たちの幸せにつながっています。

何事にも縛られない 住所のないまち

あらゆる機能がサービスとして街なかに点在
人びとは常に移動しながら自由に各所を使いこなす

各所の機能は自分や家族だけ利用できるので、他人とのやりとりや気がねは不要。その時々の状況や気分で自由に生活スタイルを選べます。いわば、自前で持たないメリットを「移動」で最大化する暮らし。サービスには企業や自治体などが介在しているので高品質で新しい設備を使える点も魅力です。



誰とでもつながれる 壁のないまち

生活に必要なあらゆる機能が家の中に集約
家にいながら世界中の人とつながる

生活に必要なあらゆる機能が家の中に集約しています。人々は、家の外にでる必要がほとんどないので、家の外観に気を使う人は少なく、自然に生える緑に覆われた家も目立ちます。また、物理的な距離に縛られず、家にいながらにして人びととネット上のホログラムなどを介して交流。世界中の人と楽しみを共有したり、助けあったりしながら暮らしています。

好きなようにこだわる 窓のないまち

生活のほとんどは家の中で完結
お互いに干渉せず、自分にぴったりで暮らす

ドローンが必要なものを家に届けてくれるので、移動する必要はなくなりました。自分ぴったりにカスタマイズされたものが、家に揃っているので誰もが明るく豊かに自分の世界に引きこもれます。全面スクリーンの家の壁では、世界の景色を映し出すことができます。家にいながら旅をしたり、景色のいい場所でくつろげる所以、まちから窓はなくなりました。

書籍のご紹介

『みらい博 あしたのまちの100の風景』

発行日：2016年1月27日

発行所：株式会社博報堂 博報堂生活総合研究所

サイズ：A4判／本文152ページ

価格：2500円（税別）

書籍のご購入について：<http://seikatsusoken.jp/about/publication-purchase/>

